

予算等審査特別委員会 2月28日～3月7日

予算等審査特別委員会（議長を除く21人の議員で構成、委員長佐々木讓議員、副委員長照井文雄議員）は、条例20件、予算18件、その他10件の48議案について付託を受けて6日間の審議を行いました。

今定例会では18年度の補正予算と19年度一般会計予算等が示され、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全48議案が原案のとおり可決されました。



▲委員会では6日間にわたり活発な審査が行われた。

期待される全国初の助産院構想

二日町小友線の工事状況は

【質問】 工事の進行状況は。
【答弁】 小友鷹鳥屋側から頂上を経て二郷神社までの工事が進行中であり19年度はこの区間1,060mの舗装工事について秋期までに完成を目指したい。綾織側は、19年度に開発行為許可等の申請を行い、平成20年から22年度で工事完成としたい。

【質問】 工事延長は補助金が余ったので実施したのか。

【答弁】 交付金はパッケージという形の地区指定で、18年度は他2路線が完了し、二日町小友線を最終調整し早期完成を進める。

【質問】 このパッケージで与えられた予算を活用し懸案道路の同線を早期整備する事が緊要ではないか。

【答弁】 19年度で舗装工事を実施、次に峠より綾織側を22年度の完成を目指したいので、地域の方々の支援をお願いしたい。

長寿の森の改修工事内容は

【質問】 長寿の森（養護老人ホーム）の改修工事3,300万円の内容は何か。民間に委譲したとき、現状のまま譲渡して行政は手をかけず、民間で継続させて行く約束であったのではないか。なぜ今更資金を投入するのか確認をしたい。また、土地の評価額もきちんと示してほしい。

【答弁】 これは、介護保険法が一部改正になったことでユニバーサルデザイン化により浴室・トイレの改修、廊下の段差解消、手すりの取付工事である。現在の建物を改修して譲渡すると、今までの補助金を返還しなければならないので、現状のまま無償譲渡した。今回、国の補助金を100%活用して改修出来るようになったので利用した。土地の評価額については今後精査をして示したい。

馬の里運営事業費の増は

【質問】 2年前馬の里に5,000万円の増資・補助を実施し、今後支援を受けないで経営改革をして民間移譲をしながら行政は手を引くことだったが、今年も6,200万円が補正予算計上された。累積赤字と未払金の支払い計画はどうなっているのか内訳を示してほしい。また、再度資金が投入されることはないのか。

【答弁】 計画では預託馬100頭で推移すると見込んでいたが、馬主会からも料金の引き下げが余儀なくされた。今後馬の里を継続していくために職員の縮減をするなど努力してきたが、18年度も赤字であったことから計画の見直しを含め事業運営のため、再度資金の支出をお願いする。また、未払金は1億1,000万円で、累積赤字は3億2,000万円であり、再度資金を投入しないと

文化財と遺産の区分はどうなっているのか

【質問】 遠野遺産認定条例制定にあたって、文化財と遺産の違いや区分をどう解釈すればいいのか。

【答弁】 文化財については、文化財保護条例に基づき指定されるものであり、歴史と価値が加味されて指定されるものである。遠野遺産については、その条件や条項は定めていないが、市民が慣れ親しんでいる地域のお宝という考え方で認定されるものである。

【質問】 認定を受けるにあたって、この条例では行政側から指定するという事はないということか。

【答弁】 そのとおりであり、遠野遺産についてはあくまで地域や市民からの申請に基づき、認定審査委員会において調査し、選定され、それに基づき認定されるものである。実際には、各地区センターに相談していただきたい。